

学校教育目標

かしこく やさしく たくましく 学び合う生野っ子
 ～よく考え すすんで表現し 仲間を大切に 行動する児童の育成～

総合的な学校関係者評価

※文書表現で記入してください。
 ・150周年記念行事を通して学校だけでなく、生野の歴史にふれるなど地域との連携を図りながらふるさと生野についての取り組みが出来たことはいいことだと思う。コロナ前の状態に戻って学校行事等が出来るようになり、子どもたちのがんばりがよく見えるようになってよかった。また行事を通して子どもたち自身が主体的に動くことが多くなり、成長したと感ずることが多かった。今後も子どもたちが主体的に活動する行事や教育活動を行ってほしい。
 ・不登校が増えていることが心配している。それに対しての学校の取り組みが見えるよう学校は情報を発信し学校・家庭・地域で情報を共有し子どもたちが楽しく安全に過ごせる学校づくりを推進してほしい。
 ・挨拶ができていないことが気になる。また家で読書をする姿を見ることがなくなると言う意見もあり、学校やPTAで協力して挨拶や本にふれる習慣を作っていく取組を考えていくと良い。

自己評価 達成状況（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 (評価項目ごとの学校関係者評価・意見等)
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A 生小だより(学校だより)やHPなどで日々の教育活動の成果や課題を取り上げながら家庭・地域に情報発信できた。	生小だよりやHP、さら連絡網などを使って情報発信はありがたいが、配布物を減らすなどデジタルとアナログの共有を図り進めてほしい。
		学校運営協議会活動の充実	A 運営協議会や地域自治協議会と連携を取りながら、今年度は夏休み前絵画教室やかかげこ教室などを実施できた。	来年度絵はがき教室など企画を計画中。エリアコーディネーターとの連絡を取りつつ、実施に向けて準備をしていきたい。
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	B 縦割り班活動を活用し、主体的に行動する場を設定し、一人一人が役割を持つことで他者への思いやりの心や自己有用感を高める教育活動を推進する。	縦割り班活動で、上級生が下級生のことを気遣ったり、下級生が上級生を頼ったりといった関係性がいいと感じる。
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A 児童への生活アンケートを行い定例の委員会や、子どもを語る会を通して全職員で共通理解のもと指導を行った。児童に寄り添いSCやSSWと連携した指導体制を充実する。	
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A 各種委員会でも組織的な対応を行っている。今後とも全職員で情報を共有し、適切な対応を行っていく。	いじめの認知やいじめの対応について学校がどんな取り組みをしているのかわかりにくい。いじめの認知について、今と昔の認識の違いはあるもの未然防止に努め楽しく過ごせる学校へ取り組んでいってもらいたい。
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B 訓練等は予定通り実施できた。年度当初に作成したマニュアルの共通理解を図り、訓練実施後には振り返りをもとにしてマニュアルのアップデートを行ってきたい。	能登半島地震から自分たちが何をして、家族とどんなことを話しておくべきか、近所の人のコミュニケーションなど学校・地域・家庭が連携した防災教育の充実をお願いしたい。
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B 地域と連携した訓練はまだ積極的に行うことはできていないので、メインホールや生野子ども園などと連携した避難訓練を実施していきたい。	近隣も含めた避難訓練の計画・計画をしていくことが出来れば良い。
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A 個のニーズに応じた指導の工夫を行うと共に特別支援コーディネーターを中心とした指導体制の充実を図る。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	A 手洗いの励行、教室の換気などを継続して行い、感染症の予防に努めることが出来た。	今後とも感染症予防のための取り組みを家庭と連携して継続して行ってほしい。
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	A 地域との連携により体験的な活動が推進できている。今後ともふるさと学習を中心とした取組を継続していく。	たくさん地域の人が関わりともに学校教育を進めていくことは大切。今後も地域とのつながりの中で地域も一緒になって子どもの教育に携わってほしい。
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業づくりのUD化推進	B 学力学習状況調査の結果から、本校の児童の課題として自分の思いを書いたり表現することがあげられる。そのために「対話」を重視して授業改善に取り組んできた。人前で話すことについてはある程度の成果が見られたが、今後も継続して取組を進めていきたい。	家庭で本を読む習慣、本にたくさんふれるようにして欲しい。そのことが語彙を増やすことにつながり、表現力がつくのではないかな。
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	B 指導方法の工夫改善について、チーム・ティーチング(同室複数指導)や、ICTを活用した個別学習、朝学習でのドリル学習、がんばり学習タイムなどを活用し個に応じた指導を行っている。	基礎・基本の定着に向けて様々な方法で苦手克服のために取り組みが行われていることはよくわかった。
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	A	
	情報教育	情報活用能力の育成に向けた指導改善	B デジタル教科書を活用しての授業改善やICTの活用など授業の中での使用頻度は増えてきている。今年度は児童向けの情報モラル教室を実施したが、発達段階に応じて継続したモラル教育の充実を図ってきたい。	時間を設定して取り組むなど、健康への配慮も家庭と連携しながら進めてほしい。ネットトラブルについても現在はないというところだが、モラル教育にも継続して取り組んでいってもらいたい。
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	B 本年度は「いいことこみつけの木」、「ありがとうの木」の取組を行った。年間を通して計画的な人権教育の取り組みだけでなく、保護者への啓発活動を行い家庭と連携した取組を行ってきたい。	人権教育は、いじめの未然防止や自己有用感にもつながるので、このような取り組みを更に充実して行ってほしい。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	A	体験を通した学びについてはとても大切だと考える。今後も積極的に取り組んでほしい。協力できることは連携して行ってきたい。
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A どの学年も栄養教諭と連携をして食育の推進を進めることが出来た。今後も継続してきたい。	好き嫌いをする事なく、野菜もたくさん食べられるようになってきた。
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B ふるさと教育の中で、地域と連携したキャリア教育の推進を行う。またまとめについては、「キャリアノート」を活用しながら行うことはできているが、まだ十分ではない。学級活動を中心としてキャリアについて教育課程と照らし合わせながら取組を進めていきたい。	小学校におけるキャリア教育の意味や「キャリアノート」とはどういうものなのか知りたい。
その他	・地域と連携した教育活動の展開 ・ふるさと学習の充実	A	米作りを通して環境学習や、地域の方をゲストティーチャーとして迎えるなどのふるさと学習の取組を今後も継続して行いふるさと意識の醸成を図る。	150周年行事やふるさと学習を通じて、ふるさと生野について学ぶことが出来たことは良かった。今後も様々な場面で学校との連携を深めていく。